

会員制ゴルフ場の会員名簿

I、会員名簿発行の有無が重要視されてきた背景と会員名簿の意義

ここではゴルフ会員権とは切っても切れない関係を有している、会員名簿に付いて考えて行きたい。

かつて会員制クラブに於いて会員名簿が発行されているか否かと言う事は、ゴルフ会員権購入検討者から見た場合、とても大切な要素であった。何故に重要視されたかと言う答えを見出す為には、当時のゴルフ界がおかれた背景を見ておく必要があり、特に（造れば売れる）と言われたゴルフ場新設に伴う、会員募集の状況を抜きにしては語れない。

例えば募集パンフレット等に記載された予定会員数を、大幅に上回る大量の会員を集めたゴルフ場は、完成後も会員名簿などを発行出来ない事は固より、会員のプレーも儘ならぬ状態であった。又一般的・大衆的ゴルフクラブの会員権価格と比較しても、それ以下の安価に設定された販売価格で、大量に会員を集めては開場前に倒産する事例が発生し、多くの被害者を出す事と成り、テレビや新聞などでも度々報道された。

この様なゴルフ場開場前倒産に対応する為、1992年5月に「ゴルフ場等に係る会員契約の適正化に関する法律」と言う法律が誕生した。この法律は消費者保護を目的としたもので、ゴルフ場事業者が会員募集を行う場合には、経済産業省への届け出を義務付けたのである。この法律は会員募集を規制し、市場を安定させる役割を果たしたのだが、それ以前の会員募集はいわゆる野放し状態で有り、ある意味やっつ者勝ち的状况をつくり出していた。

会員名簿発行の有無が、ゴルフ会員権購入検討者にとって大きなポイントになったのは、大量会員クラブでは無く安心出来ると言う、ある意味負の遺産に対してそれを否定する事で語られて来たと言える。

かつて会員名簿がゴルフ会員権購入者へ果たして来た若干の役割は、上記の通りと言えるが、そればかりではなく、例えばそれを閲覧する事で所属会員の属性やクラブ運営の実態、或いは会員数等々を若干でも把握出来たのである。会員名簿は会員制クラブの品格を問う、一つのメルクマールともいえるものであり、その意義は大きくそしてその価値は、今日に於いても失われるものではない。

II、何故、会員名簿を発行するクラブが減少したのか

クラブに於ける会員名簿の機能とは、当初どの様なものであったのだろうか。それは会員間

をつなぐ連絡網として、或いはクラブ構成員を明らかにする事で、クラブの品格をも表現していた様に思われる。

しかしながら現代に於いては、紙ベースによる会員名簿の持つ役割が、薄れて来ている様にも思える。それは近年 IT（インフォメーション テクノロジー）技術が飛躍的に向上し社会に定着した事で、単にクラブから会員へ、或いは会員間の連絡網と言う意味では、紙ベースの情報に依存しなくなりつつ有り、更には会員名簿が会員外へ流出する事で様々な弊害をも引き起こしているからだ。

2003年に成立し2005年より全面的に施行された個人情報保護法は、その法律の持つ現場での問題点よりも、個人情報の在り方、取扱い方をより社会に問う契機と成った。

公人では無い一般大衆とも言うべき友人や知人の家族構成であるとか、経済的事情、病歴などを、気さくに第三者へ話していた事情通と言われた人物は、社会から少しずつ駆逐されつつある。その様なパーソナリティは、今日成立し得なくなっている。個人の尊厳と言うものがより強調される時代に入り、地域のボスや強烈な個性の持ち主が、我が物顔で闊歩したのは過去の物語と成りそうだ。よりフラットな社会構成に成りつつあるのだ。

そして今日様々な理由により、預託金の無いプレー会員権主体のクラブが、増加してきている。その会員資格とはある意味年次会員にも等しく、クラブ側も入会手続きにあたり、新規入会者に対して推薦者或いは紹介者などを、強要しないケースが多くなった。入会希望者もクラブに対して会員間のコミュニティーなどを求める事が少なく、安価に友人・知人とプレーさえ出来れば良しとする傾向にある様だ。

又、会員権価格も相場ピーク時の10分の一から、ケースによっては100分の一程までに下落しており、目当てのクラブが大量会員で有るとか、或いは会員になっても予約すら出来ないなどのリスクが大幅に軽減されており、新規入会希望者はゴルフ会員権取得に関して神経質になる事が少なくなった。

この様な社会の変化の中で、会員名簿を発行するクラブが減少しつつ有り、そして今その在り方が問われている。

Ⅲ、今後クラブに於ける会員名簿とは

現代に於いては会員名簿が紙ベースで発行されていない事の方が、次の様なシステムが実行されている前提で考えると、より先進的で有りクラブの格式を高める様にも思われる。

会員が自らの所属クラブ会員情報を知りたければ、クラブの会員コーナーで会員台帳を閲覧出来る、或いは会員専用のお世話係、最近良く使われているところのコンシェルジュとでもい

うべきセクションが対応出来るのであれば、会員の必要性を満たし機能としてはこれで充分な様に思われる。

又、セキュリティ上の問題が担保されるのであれば、当該クラブ WEB サイト上から、会員で有るならば仲間の簡単な情報は確認出来る様になり、必然的に紙ベースでの会員名簿は不要に成る、その様な時代がそれほど遅くない時期に到来するものと思われる。

IV、最後に

会員制クラブのクオリティを考えた場合、重要な事はゴルフ倶楽部或いはカントリー倶楽部が、如何に会員間のコミュニティーを提供できるかであり、その一つの役割として会員名簿も又位置づけられていると言える。

会員名簿は今後も様々な形態をもって存続して行くものと思われるが、かつてゴルフ会員権を購入する上で一つの重要な参考資料として考えられていた従来型紙ベースでの会員名簿発行の有無は、現在では大きな意味合いを持たなくなっている。

会員名簿はクラブのクオリティに通じる問題とも言えるのだが、ゴルフ会員権購入の観点から、会員名簿が紙ベースで発行されているか否か等と言う事は、会員権購入を左右する大きな問題とは成り得ていない。それが今日の現状である。品格を重視している、或いは重視しようとしている会員制クラブに於いては、いち早く次のステージへの移行が、求められている様に思われる。

2016年12月16日

タクト株式会社__大野良夫

TEL 050-3821-6039 / e-mail: ohno@hanzo.co.jp